

平成 1 7 年度森林総合研究所四国支所研究評議会報告

外部の有識者から四国支所の研究活動や業務運営に関して意見をいただき、今後の活動に反映させていくために開催しているものです。

日時：平成 1 8 年 3 月 8 日（水） 1 3：0 0～1 6：5 0
場所：森林総合研究所四国支所 会議室

1. 評議会委員及びオブザーバー

委 員

岡 信一 久万高原町林業振興協議会 代表 指導林家
徳岡 正三 高知大学農学部森林科学科 教授

オブザーバー

陶山 芳伸 四国森林管理局計画部 指導普及課長
東 彪 高知県立森林技術センター 所長

2. 議事次第

- 1) 開会挨拶
- 2) 出席者紹介
- 3) 支所説明
 - (1) 概要説明
 - (2) 研究の実施状況と成果
- 4) 業務運営及び地域ニーズに関する意見交換
- 5) 講評
- 6) 取りまとめ（支所長）
- 7) 閉会

3. 委員及びオブザーバーの意見・指摘事項と対応方針

項目	指 摘 事 項	対 応 方 針
研究推進についで	・最近、地域（県林試）の研究は木材加工に重点が置かれているように見える。しかし林業の根幹は、やはり育林、施業であり、現場のニーズを十分くみ上げ、地域の林業の振興に役立つ研究を進めて欲しい。 ・「省力的施業」のワークショップは、情報交換の場として、個人的にも参考になる面が多く、大変良かった。しかし、連絡をもらったのが1ヶ月前だったので、もっと早く知らせが届くようにして欲しい。参加者がもっと増えると思う。 ・森林総研全体では、膨大な数の研究課題が取り組まれており、四国支所もその一翼を担っている。さらに研究を発展させて欲しい。	・次期中期計画（H 1 8～2 2）において、四国支所を中心とする地域研究課題として「森林の活力向上のための強度間伐法の開発」に取り組む予定である。 ・今後ともワークショップなどを通じ林業現場での研究ニーズの把握に努めていきたい。今後は余裕をもって準備に取りかかるようにしたい。 ・「地域研究の拠点」として、地域の問題解決に向けた課題に重点的に取り組んでいきたい。

成果の活用 ・普及に ついで	・「森林のタイプと生物多様性の関係」、「伐採後放置した森林の再生の仕組み」等、様々な成果が出てきている。こうした成果を、行政施策（例えばゾーニングや放棄地対策）に、もっと反映させていくことができればと思う。 ・「緑のダム」という言葉がよく聞かれるが、一般の人にとってそれだけ関心が高いことを表している。四国は夏場の水不足がよく問題になるが、森林がどのくらい渴水の緩和に役立っているのかを、具体的データで分かり易く示すことはできないだろうか。	・県の行政部局など一層の情報交換に努めていきたい。 ・広報誌やセミナーなどを通じ「森林のはたらき」を分かり易く、一般の人々に伝えるよう努力したい。
地域連携についで	・大学、民間、国有林など一層の連携を図りながら、地域のニーズに応える研究を進めていただきたい。現在、四国森林管理局では、支所の協力・支援を得て、シカ害についての調査を進めており、お礼申し上げる。今後はシカ害の他にも、四万十川森林環境保全ふれあいセンターの事業に関連した調査への協力などについて検討してみたい。 ・現在、高知県は地方行政改革のまっただ中で、試験研究についても組織再編が検討されている。他の機関との連携が欠かせないので、今後とも協力・支援をお願いしたい。	・様々な分野で国有林をフィールドとして使わせていただいている。今後ともよろしく願いしたい。 ・今後とも情報交換と協力に努めていきたい。
その他	・学会誌掲載論文数が研究評価の一つの指標になってきている。公的機関ではこの流れに従わざるを得ないが、説明資料によるとこの数値が目標を下回っており、なお一層の努力が必要である。	・次期中期計画では目標数値の達成に向け、最大限努力したい。